

Accuphase

INTEGRATED STEREO AMPLIFIER

インテグレートッド・ステレオアンプ

E-307

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要な事項を記入の上、お早めになるべく10日以内に返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届けいたします。製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

⚠ マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

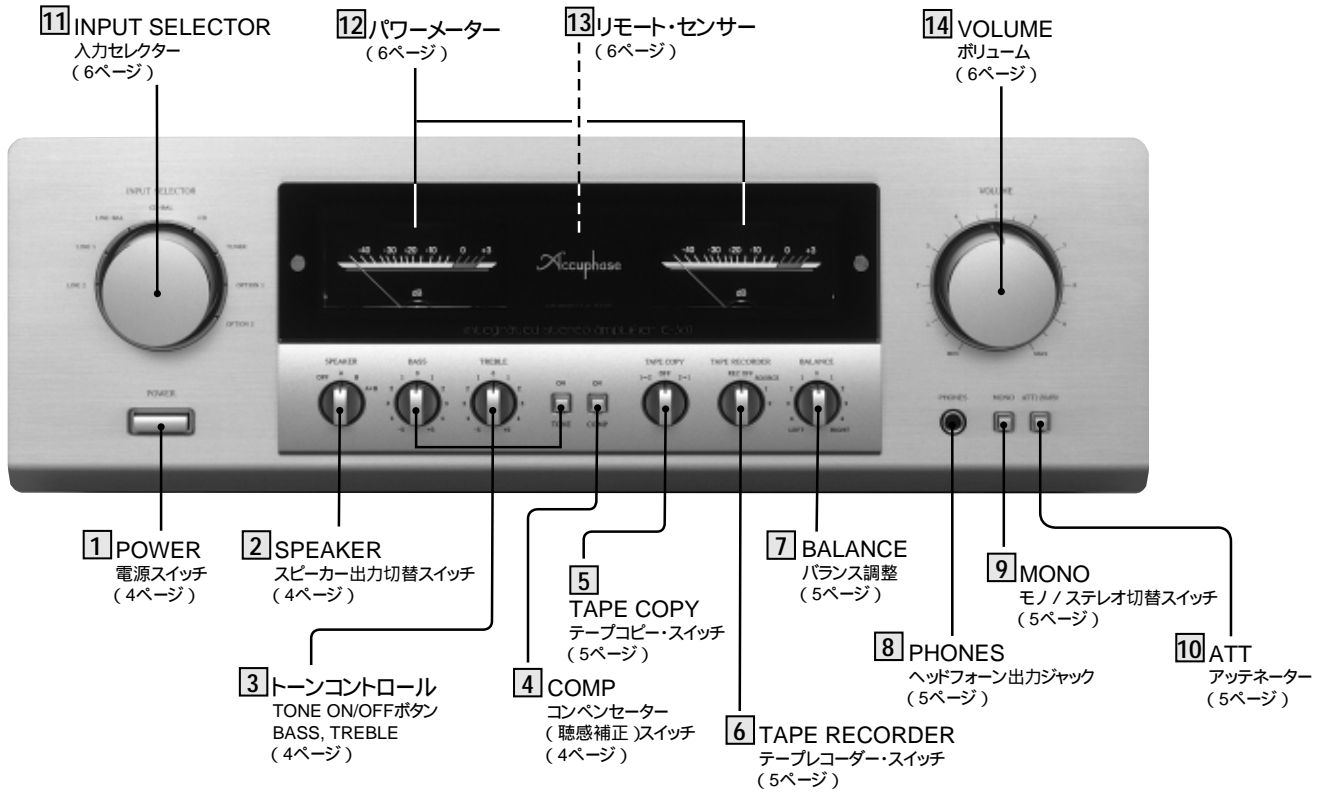
目次

1. 各部の名前	1
フロントパネル、リアパネル	1
2. 接続図	2
付属品を確認します	2
3. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください / ⚠ 注意	3
4. 各部の動作説明	4 ~ 7
5. ご使用方法	8
CDプレーヤー(アナログ入力)の演奏	8
チューナーで放送を聴く場合	8
テープレコーダーで録音・再生をする場合	8
6. オプション・ボード	10
オプションの使用法	
CDなどをデジタル入力で演奏	10
アナログ・ディスク(AD)の演奏	11
オプションの種類	
ライン入力ボード LINE-10	11
デジタル入力ボード DAC-10	11
アナログ・ディスク入力ボード AD-10	12
オプションの取り付け方法	13
7. リモート・コントロール	14
使用法 / 電池について	14
8. 保証特性	15
9. 特性グラフ	16
10. ブロック・ダイアグラム	17
11. 故障かな?と思われるときは	18
12. アフターサービスについて	19

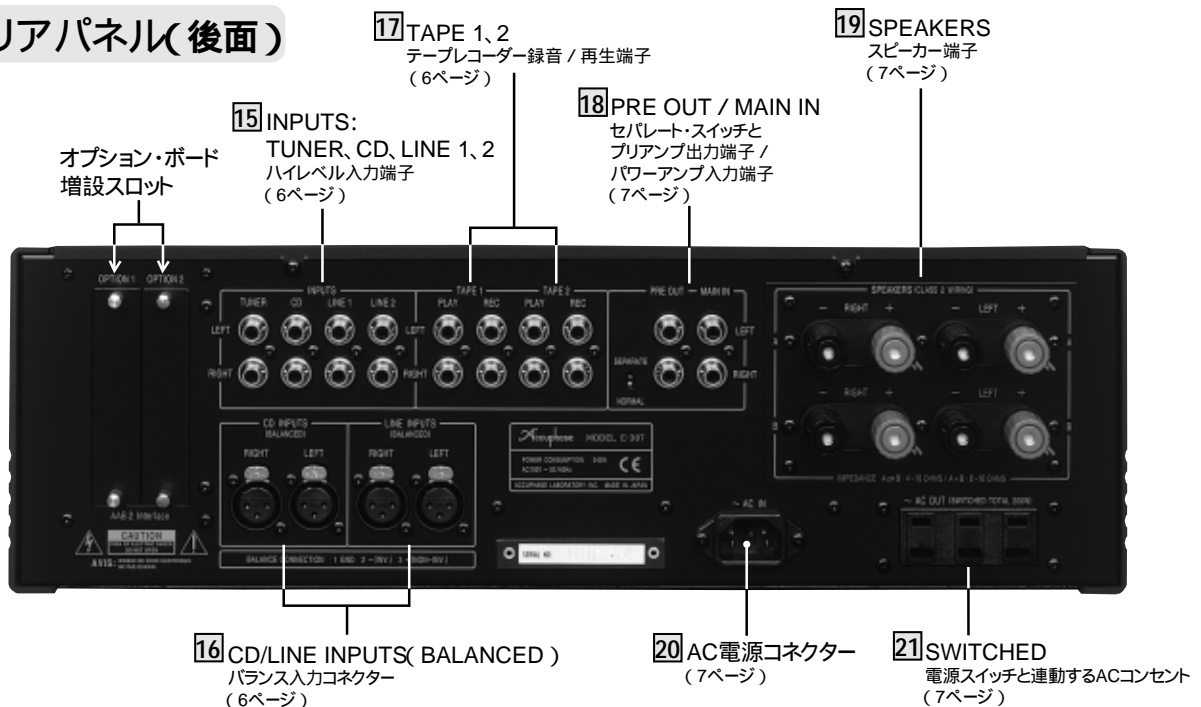
1. 各部の名前

詳しい説明は 各部の動作説明 (4~7ページ) を参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



2. 接続図

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。

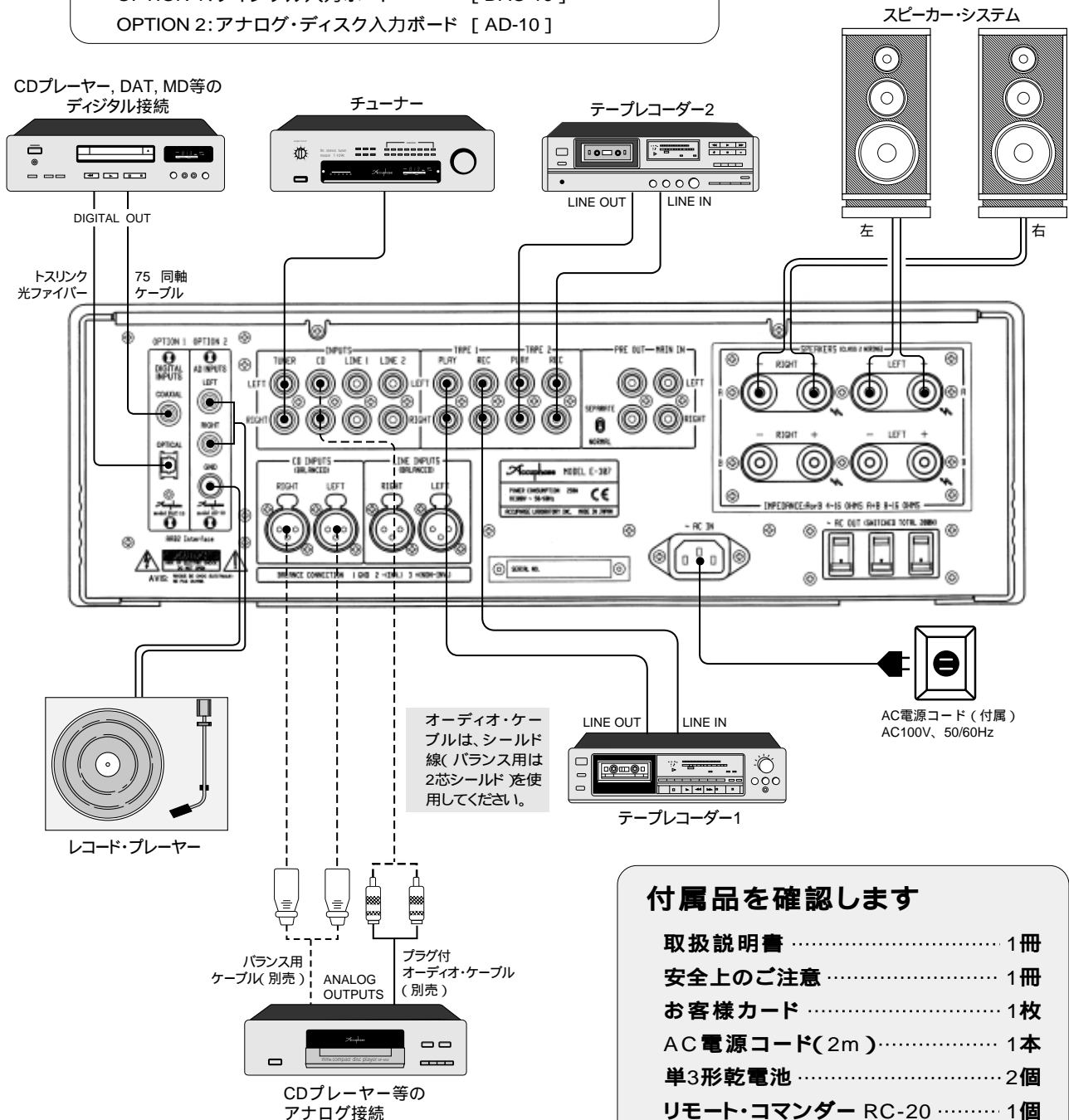
イラストはオプションを増設した場合の接続例です。

注意 電力容量の関係で、オプションDAC-10は1枚しか増設できません。
 DAC-10とデジタル機器との接続は、75 同軸ケーブルまたはトスリンク光ファイバーを使用します。
 アナログ入・出力の接続は、オーディオケーブルを使用しLEFT(左) RIGHT(右)を正しくつないでください。
 アナログ出力のバランス用とアンバランス用ケーブルは、同時に接続しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

オプション(別売)の増設例(オプションの種類は11, 12ページ参照)

OPTION 1: デジタル入力ボード [DAC-10]

OPTION 2: アナログ・ディスク入力ボード [AD-10]



付属品を確認します

- 取扱説明書 1冊
- 安全上のご注意 1冊
- お客様カード 1枚
- AC電源コード(2m) 1本
- 単3形乾電池 2個
- リモート・コマンダー RC-20 1個

3. ⚠️ 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前に、この『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属以外の電源コードは絶対に使用しない。

ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。

電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしなさい。

電源コードが傷んだら、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

“ヒューズの交換”など内部の作業はお客様直接はできません。必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。

内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨など)や燃えやすい物が入った場合。

故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。

落としたり、破損した場合。

⚠️ 注意

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

次の場所に設置しない。故障や火災の原因となることがあります。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所

直射日光の当たるところ

暖房器具の近く

振動や傾斜のある不安定な場所

他の機器と直接重ねて使用しない。

放熱には、上下の通気孔による自然対流の空冷方式を採用していますので、通気孔をふさがないでください。ケース上面に触れると熱く感じますが、性能や耐久性にはまったく支障ありません。

スピーカーコード、入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となる場合があります。

スピーカーコードの接続が不完全で、コードが外れて本体シャーシや入・出力端子に触れると、アンプの故障やショック・ノイズの原因となる場合があります。

オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切る。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となる場合があります。

オプションの増設について

CDプレーヤー、DAT、MDなどをデジタル入力で演奏する場合(10ページ)

別売のオプション、デジタル入力ボードDAC-10をリアパネルのスロットに増設してください。

DAC-10は、E-407、E-406V、E-306V、E-211、C-265には使用できません。

サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号を入力して演奏することができます。

DAC-10は、電力容量の関係で1枚しか増設できません。

アナログ・ディスクを再生する場合(10ページ)

別売のオプション、アナログ・ディスク入力ボードAD-10をリアパネルのスロットに増設してください。

お手入れ

お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となる場合があります。

4. 各部の動作説明

1 POWER - 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約6秒間は、ミュ-テイング回路が作動しますので出力はありません。

警告

内部をあけると危険です。

電源が入らなくなった場合には、内部で異常が発生した可能性があります。必ず電源プラグをコンセントから抜き、当社の品質保証部または当社製品取扱店へご連絡ください。

2 SPEAKER - スピーカー出力切替スイッチ

スピーカー端子A、Bに2系統のスピーカーを接続することができます。

OFF

ヘッドフォンだけで聴く場合や、スピーカーから音を出さない時には、この位置にします。

A、B

スピーカー端子A、Bどちらか1系統を選択します。

A+B

2系統のスピーカーを同時に鳴らすことができます。この場合は、インピーダンス8 以上のスピーカーを接続してください。バイ・ワイヤリング接続する場合にも、このポジションにします。

3 TONE、BASS、TREBLE - トーンコントロール

TONE - トーンコントロールON/OFFスイッチ



押して“ ON ” : スイッチは
再び押すと“ OFF ” : スイッチは

“ ON ”でBASS(低音)/TREBLE(高音)コントロールが有効です。

“ OFF ”にするとBASS/TREBLEツマミの位置に関係なく、フラットな特性が得られます。

BASS - 低音コントロール

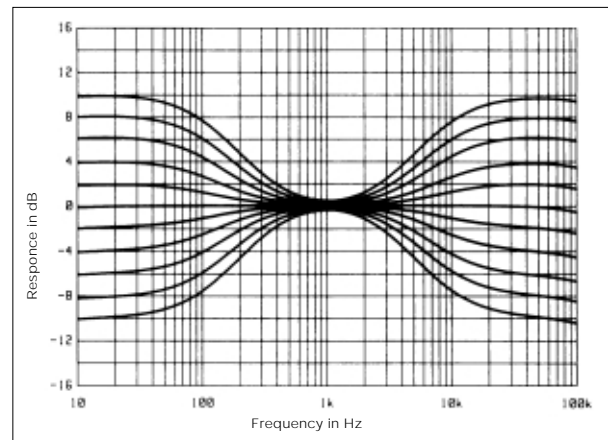
センター(0)から右にまわすと低音増強、左にまわすと減衰します。

ターンオーバー周波数 : 300Hz
変化量 : 50Hzで±10dB

TREBLE - 高音コントロール

センター(0)から右にまわすと高音増強、左にまわすと減衰します。

ターンオーバー周波数 : 3kHz
変化量 : 20kHzで±10dB



トーン・コントロール特性

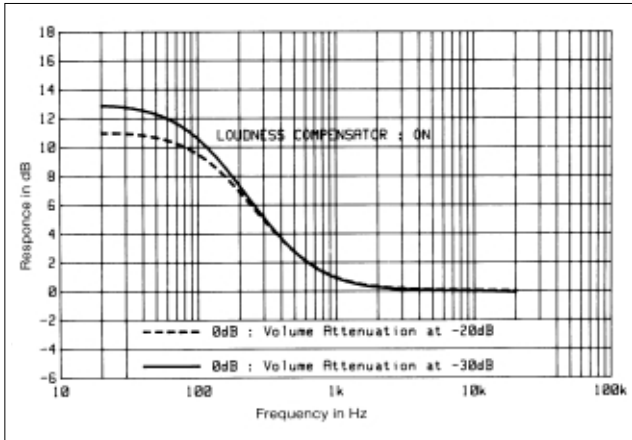
4 COMP - コンペンセ - タ - (聴感補正)スイッチ

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、そのときの音量によって低音・高音が不足してきます。この量感を補うために、本機では低音200Hzを+6dB上昇させることができます。

増強する量はボリュームを-30dB絞ったときの値で、音量を上げれば順次、自動的に増強量は減少します。



押して“ ON ” : スイッチは
再び押すと“ OFF ” : スイッチは



コンベンセーター特性

5 TAPE COPY - テ - プコピ - ・スイッチ

テープレコーダーを2台使って、相互にテープのコピーをするときにこのスイッチを使います。

1 2, 2 1

TAPE 1に接続したテープレコーダーをマスターにして、TAPE 2のテープレコーダーにコピーする場合は 1 2 "ポジション"にします。逆の場合は 2 1 "にします。

OFF

コピーしない場合には、このポジションにします。

6 TAPE RECORDER - テープレコーダー・スイッチ

REC OFF

通常(録音しない場合)はこのポジションにします。入力セクターで選択するプログラムソースを演奏しますが、録音用 "REC" 端子に信号は出力されません。

SOURCE

録音するにはこのポジションにします。入力セクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、"REC" 端子に信号が出力され、録音が可能になります。

TAPE 1, 2

テープ再生の場合には、リアパネルのTAPE 1、TAPE 2へ接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択します。録音時にこのポジションに切り替えると、そのとき録音している状況をモニターすることができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

7 BALANCE - バランス調整

左右の音量バランスを調整することができます。
通常はセンターで使用します。

8 PHONES - ヘッドフォン出力ジャック

ヘッドフォンのプラグをこのジャックに差し込んでください。
ヘッドフォンだけで聴く場合には、SPEAKERスイッチで出力をOFFにします。
音量調整はメインボリュームを使用します。
インピーダンス4 ~ 100 のヘッドフォンをご使用ください。

注意

リアパネルのプリ/パワー分離スイッチでセパレートにした場合、このヘッドフォン端子には、本機のパワーアンプ側の信号が出力されます。したがって、音量調整は接続したプリアンプのボリュームを使用します。

9 MONO - モノステレオ切替スイッチ

ステレオとモノフォニックの切り替えスイッチです。モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。

MONO



押しで "MONO (モノフォニック)": スイッチは
再び押すとステレオ再生 : スイッチは

注意

録音をするとき "MONO" の状態では、レコーディング出力もモノフォニックになりますので、注意してください。

10 ATT - アッテネ - タ -

出力レベルを標準状態から瞬時に音量を下げるができます。
減衰レベルは -20dBです。

ATT(-20dB)



押しで "ON" : スイッチは
再び押すと "OFF": スイッチは

11 INPUT SELECTOR - 入力セレクト

リアパネルの各入力端子を選択しLEDの点灯で表示します。リモートコマンダーRC-20でも同様に切り替えることができます。

CD、TUNER、LINE 1、2
一般的なアンバランス方式で、リアパネルの各入力端子へ接続した機器を選択します。

CD-BAL、LINE-BAL
リアパネルの入力端子へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

OPTION 1、2
リアパネルのオプション・スロットに増設した入力端子を選択します。

このつまみには指標がなく、エンドレス(ストップのない)のロータリースイッチを使用しています。

12 ピーク指示型パワーメーター

メーター・スケールは出力レベルをdB(デシベル)で表示します。

8 出力を基準に、4 で2倍、16 の時は1/2の値が出力になり、正弦波の場合には下記のような出力値になります。

メーター表示

	4 負荷	8 負荷	16 負荷
0dB	200W	100W	50W
- 10dB	20W	10W	5W
- 20dB	2W	1W	0.5W
- 30dB	200mW	100mW	50mW
- 40dB	20mW	10mW	5mW

このパワーメーターはピークレベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するように回路が構成されています。したがって、瞬時のピーク値を読みとりやすくするためにメーター指針の立ち上がり時間に比べて、帰りの時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあったりパルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

13 リモート・センサ

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-20の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。

14 VOLUME - ボリューム調整

右へまわすと音量が増大し、左に回すと小さくなります。リモート・コマンダーRC-20でも同様に作動させることができます。入力を切り替えたり、電源を切るときなどはボリュームを下げてください。

15 INPUTS: TUNER、CD、LINE 1、2 - ハイレベル入力端子

この入力端子はアンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。

16 CD/LINE INPUTS(BALANCED) - バランス入力コネクタ

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力コネクタです。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は、

: グラウンド

: インバート(-)

: ノン・インバート(+)

となっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて接続してください。

バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

17 TAPE 1、2 - テープレコーダ - 録音 / 再生端子

2系統のテープレコーダーを接続することができます。

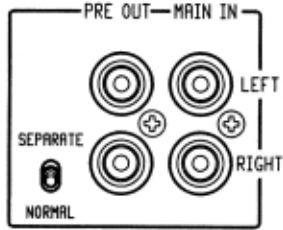
“PLAY”端子	テープレコーダーの“LINE OUT”
“REC”端子	テープレコーダーの“LINE IN”

REC端子の出力信号は、本機のボリューム、トーン、コンペーンセーターなどの影響を受けません。

MONOスイッチがモノになっていると、REC端子の信号もモノフォニックになります。録音時にはご注意ください。

18 PRE OUT / MAIN IN - セパレート・スイッチと
プリアンプ出力端子 / パワ - アンプ入力端子

プリアンプとパワーアンプを分離するスイッチと分離したときの
入・出力端子です。



NORMAL

分離しない通常の使用状態です。

SEPARATE

PRE OUT : プリアンプ部だけを使用する時の出力端子

MAIN IN : パワー部を使用する時の入力端子

グラフィック・イコライザ - を挿入するときには"SEPARATE"
にして、この入・出力端子に接続します。

"SEPARATE"にして、パワー部を使用するときのレベル調
整は、本機と組み合わせる機器で行ってください。本機のボ
リュームは無関係になります。

19 SPEAKERS - スピーカー端子

A、B端子に2系統のスピーカー・システムを接続することができ
ます。

*インピーダンス4~16 のスピーカーを使用してください。

*2組のスピーカーを同時に鳴らす場合には、インピーダンス
8~16 のスピーカーを使用してください。

*バイ・ワイヤリング接続する場合には、A/B端子それぞれから
スピーカーの低音用 / 中・高音用端子と接続します。

20 AC電源コネクター

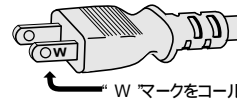
付属の電源コードを接続します。



警告

電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

電源コードの極性表示について
本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、
電源プラグのコールド側に『W』マークを刻印しています。機器
の接続を統一したい場合は参考にしてください。



注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に
比べて大きい)がコールド側です。

大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化しま
す。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電
位が逆表示することがあります。

本機のSWITCHEDコンセントは、下側がコールド側です。

21 SWITCHED -
電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源ス
イッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時に
ON/OFFすることができます。

接続する機器の消費電力の合計が200Wを超えないよう
ご注意ください。

5. ご使用方法

使用される前にツマミの位置を確認します。

VOLUME:下げた(左にまわしきった)状態

SPEAKER:AまたはBの接続したポジション

TAPE RECORDER:REC OFF

TAPE COPY:OFF

MONO、TONE、COMP、ATT:OFF(スイッチは■)

BALANCE:センター

CDプレーヤー(アナログ入力)の演奏

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネルのCD入力端子(またはTUNER、LINE端子)へ接続します。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、バランス用「CD/LINE INPUTS」端子をご使用ください。

演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤー、パワーアンプの電源を「ON」にします。

入力セクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択します。

CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。

MODEスイッチをモノフォニック状態にし、音像が中央に定位することを確認したりトーン、コンペンセーターなどの効き具合をお試しください。

チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力ケーブルをリアパネルのTUNER入力端子(またはCD、LINE端子)へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、バランス用「CD/LINE INPUTS」端子をご使用ください。

CD再生と同じ要領で入力セクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

テ - プレコ - ダ - で録音・再生をする場合

リアパネルのTAPE 1(またはTAPE 2)にテープレコーダーを接続します。

REC 端子	テープレコーダーのLINE IN端子
PLAY 端子	テープレコーダーのLINE OUT端子

再生: プレイバック

TAPE RECORDERスイッチでTAPE 1(またはTAPE 2)に合わせ、テープレコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

テープレコーダーを再生だけに使用する場合は、各ライン入力端子を使うことができます。

録音: レコ - ディング

レコーディングの操作手順

録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。

TAPE RECORDERスイッチをSOURCEポジションにします。テープレコーダーへの信号がREC端子から出力されます。

テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

本機のボリューム、トーン、コンペンセーターやバランスなどは、録音される音には関係しませんので音量を下げて静かに録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。

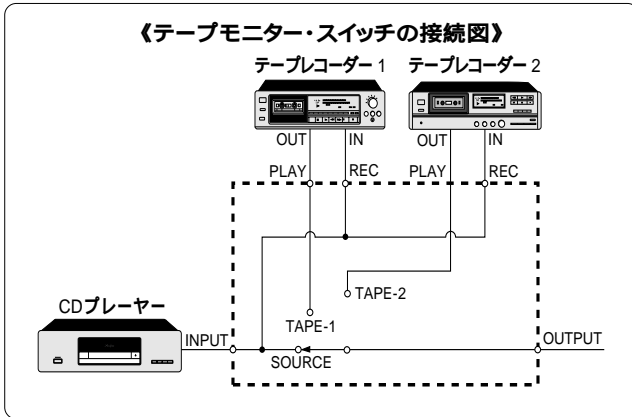
注意

MONOスイッチがON(モノフォニック状態)になっていると、録音出力もモノフォニックになってしまいますから注意してください。

TAPE RECORDERスイッチをTAPE 1(またはTAPE 2)へ切り替えると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)

TAPE 1,2の各REC端子には同じ信号が出力されますので、2台のテープレコーダーで同時録音も可能です。

《テープモニター・スイッチの接続図》



電源 OFF時のチューナー録音

本機はロジック・リレーコントロール回路を使用しています。このため、電源OFFの場合、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、TAPEのREC端子に出力されます。入力セレクターやTAPE COPYスイッチなどの位置に関係ありませんから、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

テ - プコピ -

本機にはTAPE COPYスイッチがついていますので、他のプログラム・ソースを聴きながら、まったく独立してテープレコーダー相互間でコピーすることが可能です。ただし、電源OFFの間にはできません。

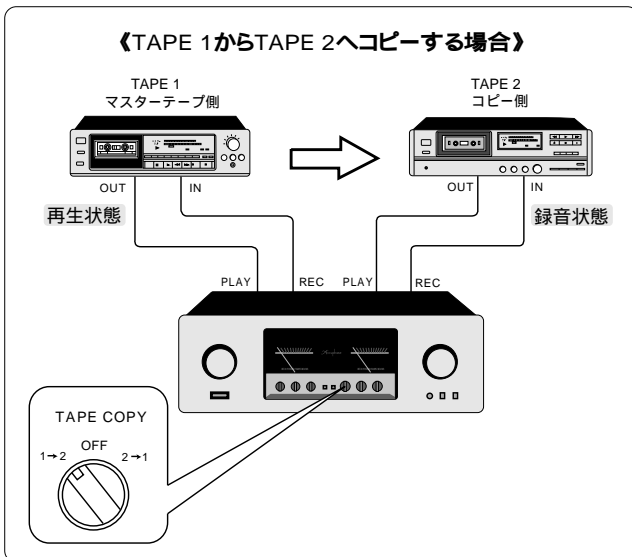
テープコピーの操作手順

TAPE 1側をマスターとしてTAPE 2へコピーする場合は、テープコピー・スイッチを「1 → 2」ポジションにします。逆の場合は「2 → 1」にしてください。

マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のレコーダーを録音状態にすればコピーができます。

“1 → 2”でコピーをしている場合は、TAPE RECORDERスイッチを“TAPE 1”にするとマスター・テープの音がモニターできます。また、“TAPE 2”にするとコピー側のモニターができます。“2 → 1”のときは逆になります。

《TAPE 1からTAPE 2へコピーする場合》



6. オプション・ボード

E-307には、デジタル入力ボード、アナログ・ディスク入力ボード、ライン入力ボードの3種類が用意されています。用途に応じて、リアパネルのオプション用スロット(OPTION 1または2)に増設してください。

オプションを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってから行なってください。

空いているスロットに、任意のオプション・ボードを増設することができます。

DAC-10は、電力容量の関係で1枚しか使用できません。DAC-10とAD-10の組み合わせは可能です。

アナログ・ディスク入力ボードAD-9、ライン入力ボードLINE-9も使用できます。

デジタル入力ボードDAC-10は、E-407、E-406V、E-306V、E-211、C-265などの機種には使用できません。

オプションの使用方法

CDなどをデジタル入力で演奏

オプションで、デジタル入力ボード(DAC-10)を増設します。ただし、DAC-10を2枚増設することはできません。

CDプレーヤー(トランスポート)、DAT、MDなどのデジタル出力(サンプリング周波数96kHzまでの音楽信号)を入力して演奏します。

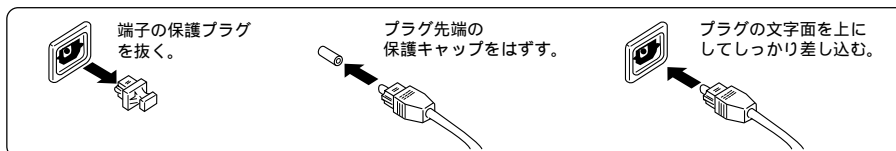
接続ケーブル

COAXIAL 端子

ピンプラグ付75 同軸ケーブルで接続してください。

OPTICAL 端子

EIAJ規格のトスリンク光ファイバー接続用端子です。当社で、コアに石英ガラスを使用した光ファイバー(LG-10等)を別売しています。



演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セレクターで、DAC-10を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。

入力機器を演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。

注意

本機はOPTICAL優先自動切替方式を採用しています。

COAXIALとOPTICALの両端子に機器を接続することができますが.....

同時に両信号を入力した場合は、トスリンク光ファイバーで入力したソースを優先して演奏します。

同軸ケーブルの信号を演奏中に、光ファイバーの信号が入ると光ファイバー入力の演奏に切り替わります。

アナログ・ディスク(AD)の演奏

オプションで、アナログ・ディスク入力ボード(AD-10)を増設します。AD-10は、2枚増設することができます。

挿入前に、ボードにあるディップ・スイッチの設定(12ページ参照)をします。

MM/MCの設定

MCの場合入力インピーダンスの選択:10/30/100

サブソニック・フィルターのON/OFF

レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。

演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セレクターで、AD-10を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。

レコード針をレコード面におろし、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認します。

レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板がゆれたりする場合は、サブソニック・フィルターをONに設定すると、可聴帯域への影響を軽減することができます。

オプションの種類

表示価格は税別です。

ライン入力ボード LINE-10

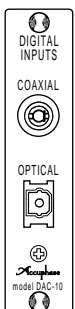
希望小売価格 8,000円



本体のINPUTSと同じ、アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。CDプレーヤー、チューナーなどアナログ信号の入力端子として使用します。

デジタル入力ボード DAC-10

希望小売価格 50,000円



同軸、光ファイバーの入力端子を装備しています。デジタル機器のデジタル音楽信号を入力することができます。

接続ケーブル

COAXIAL : 75 同軸ケーブルで接続
OPTICAL : トスリンク光ファイバーで接続
(OPTICAL優先自動切替)

保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201 / AES 3に準拠
サンプリング周波数 : 32kHz ~ 96kHz
デジタル入力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75
OPTICAL -27 ~ -15dBm

アナログ・ディスク入力ボード AD-10

希望小売価格 50,000円



アナログ・レコードを再生します。高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いかなるカートリッジにも対応することができます。

このボードを2枚増設すると、2系統のカートリッジに対応することができます。

LEFT, RIGHT - アナログ・プレーヤー - 入力端子

この入力端子には、アナログディスク・プレーヤーの出力ケーブルを接続します。

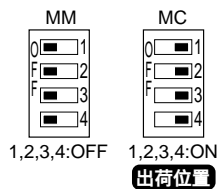
GND - アース端子

アナログ・プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出ているアース線を接続します。

挿入前に、ボード上にあるディップ・スイッチの設定をします。

注意 スwitchの各キーは、先の細いもので完全にセットしてください。指定以外の設定では所定の特性を得られません。

S1, S2: MM/MC - イコライザーゲインの切替



MM: 高出力電圧のMM型カートリッジ

ゲイン : 36dB

入力インピーダンス : 47k

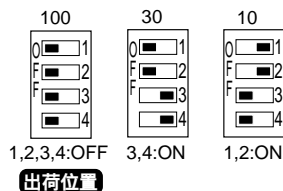
MC: 出力電圧が低いMC型カートリッジ

ゲイン : 62dB

入力インピーダンス : S3で切り替え

両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

S3: MCの入力インピーダンスの選択



一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが

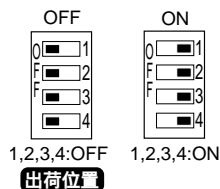
20 以上 : 100 に設定

20 以下 : 30 または 10 に設定

カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。

S3で左右チャンネル同時に設定されます。

S4, S5: サブソニック・フィルターのON/OFF



このフィルタ - は、超低域25Hz以下を - 12dB/octaveという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。

両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

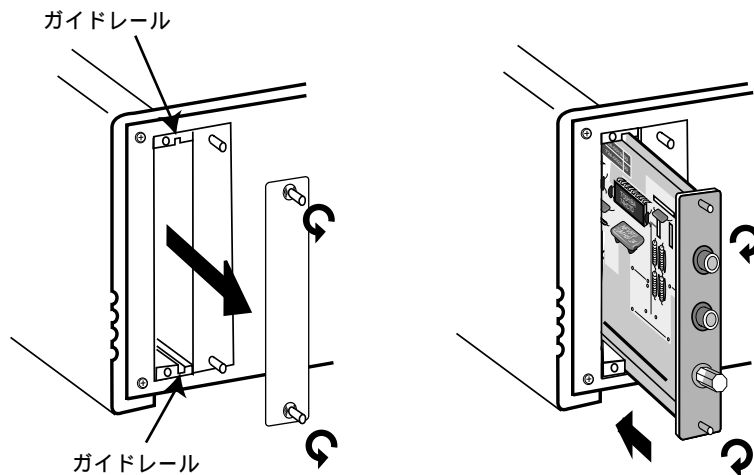
オプションの取り付け方法

E-307の電源スイッチをOFFにします。

リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。

E-307挿入口の上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)

上下のネジ2カ所で確実に固定します。



*挿入のイラスト図は、AD-10を示します。

⚠️ 注意

オプションを抜き差しするときは、必ずE-307の電源を切る。電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となることがあります。

部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らない。接触不良や回路が故障する原因となることがあります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。

オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締める。締めつけが不十分ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。

7. リモート・コントロール

リモート・コマンダー RC 20の取り扱い方

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-20を使うと、離れたところから次の機能をコントロールすることができます。

INPUT SELECTOR - 入力セレクトター

リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各ボタンを押しますと、INPUT SELECTORツマミの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

VOLUME - ボリューム調整

本体ボリュームと連動しており(+)ボタンを押し続けると、ボリューム・ツマミが右に回転し音量が増大します。また、(-)ボタンを押し続けていると左に回転し音量は減少します。

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑬リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり 内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヵ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、

⊕(プラス) ⊖(マイナス)を正しく合わせる。

新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。

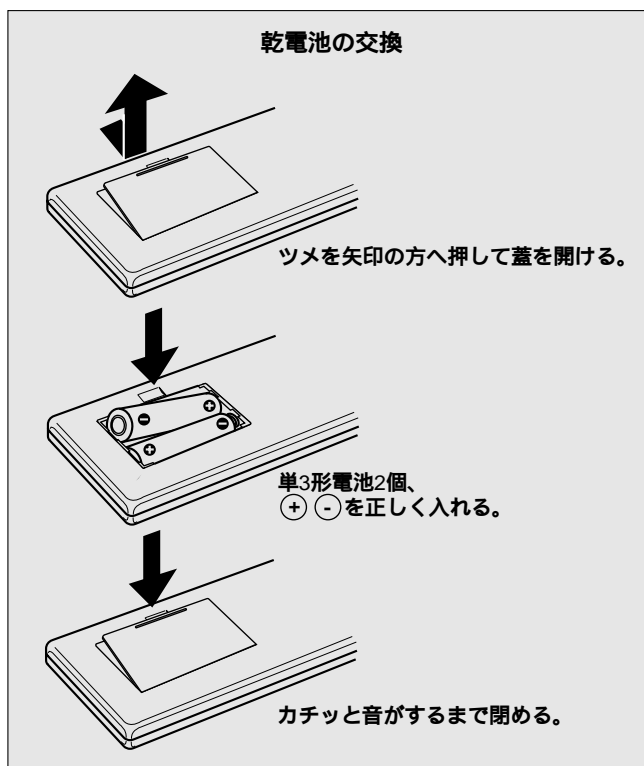
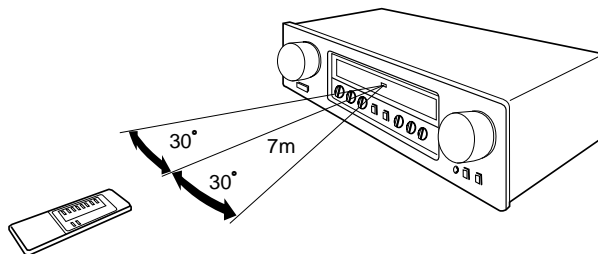
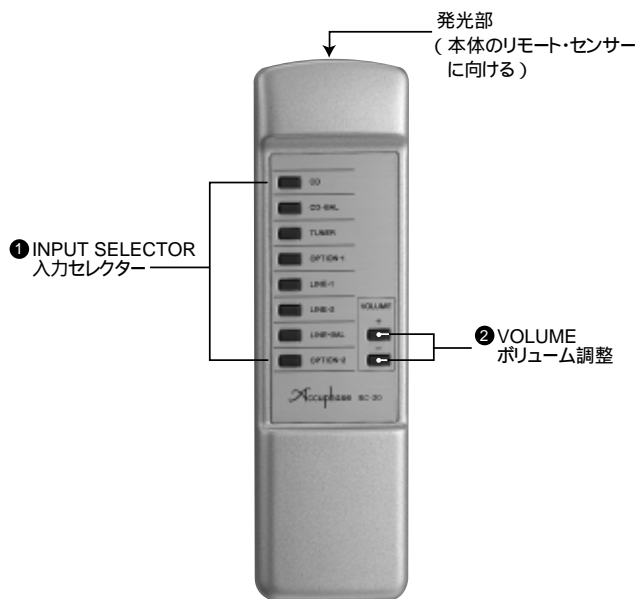
種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。

長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。



8. 保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

定格連続平均出力(両チャンネル同時動作 20~20,000Hz間)

140W/ch 4 負荷
120W/ch 6 負荷
100W/ch 8 負荷

全高調波ひずみ率(両チャンネル同時動作 20~20,000Hz間)

0.01% 4~16 負荷

IMひずみ率 0.01%

周波数特性

MAIN INPUT: 20~20,000Hz 0 -0.2dB
(定格連続平均出力時)
2~150,000Hz 0 -3.0dB
(1W出力時)
HIGH LEVEL INPUT: 20~20,000Hz 0 -0.2dB
(定格連続平均出力時)

ダンピング・ファクター 100(8 負荷 50Hz)

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	EIA(1W出力時)	
HIGH LEVEL INPUT	113mV	11.2mV	20k
BALANCED INPUT	113mV	11.2mV	40k
MAIN INPUT	1.13V	112mV	20k

出力電圧・出力インピーダンス PRE OUTPUT 1.13V 50
(定格連続出力時)

ゲイン

MAIN INPUT OUTPUT :28dB
HIGH LEVEL INPUT PRE OUTPUT :20dB

トーン・コントロール

ターンオーバー周波数および可変範囲
低音:300Hz ±10dB(50Hz)
高音:3kHz ±10dB(20kHz)

ラウドネス・コンペンセーター

+6dB(200Hz); VOLUME -30dBにて

アッテネーター -20dB

S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート(A・補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
HIGH LEVEL INPUT	104dB	-123dBV	80dB
BALANCED INPUT	88dB	-107dBV	80dB
MAIN INPUT	122dB	-121dBV	100dB

パワーメーター 対数圧縮型ピークレベル表示
出力のdB目盛

負荷インピーダンス 4~16

ステレオ・ヘッドフォン 適合インピーダンス 4~100

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力
50W 無入力時
240W 電気用品安全法
385W 8 負荷定格出力時

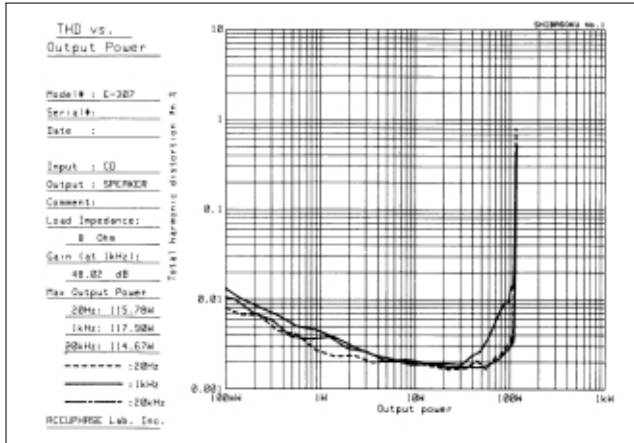
最大外形寸法
幅475mm × 高さ170mm × 奥行424mm

質量
21.6kg

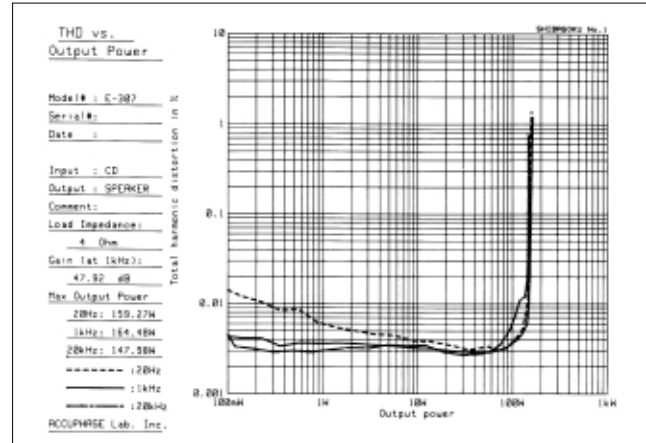
付属リモート・コマンダー RC-20
リモコン方式 : 赤外線パルス方式
電源 : DC3V・乾電池 単3形2個使用
最大外形寸法 : 55mm×194mm×18mm
質量 : 100g(電池含む)

本機の特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

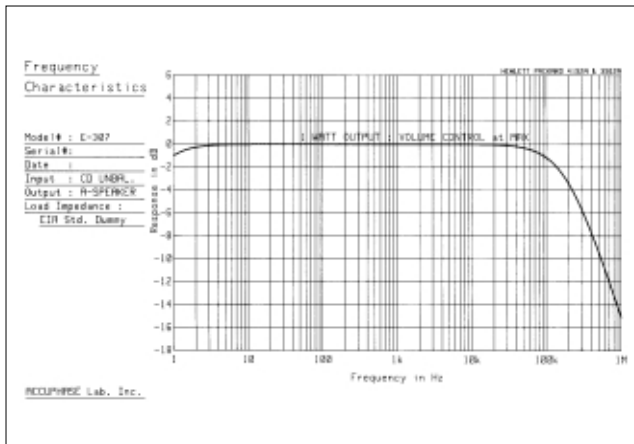
9. 特性グラフ



出力電力 / 全高調波ひずみ率特性 (8 負荷時)



出力電力 / 全高調波ひずみ率特性 (4 負荷時)



周波数特性 (8 負荷、ステレオ1W出力時)

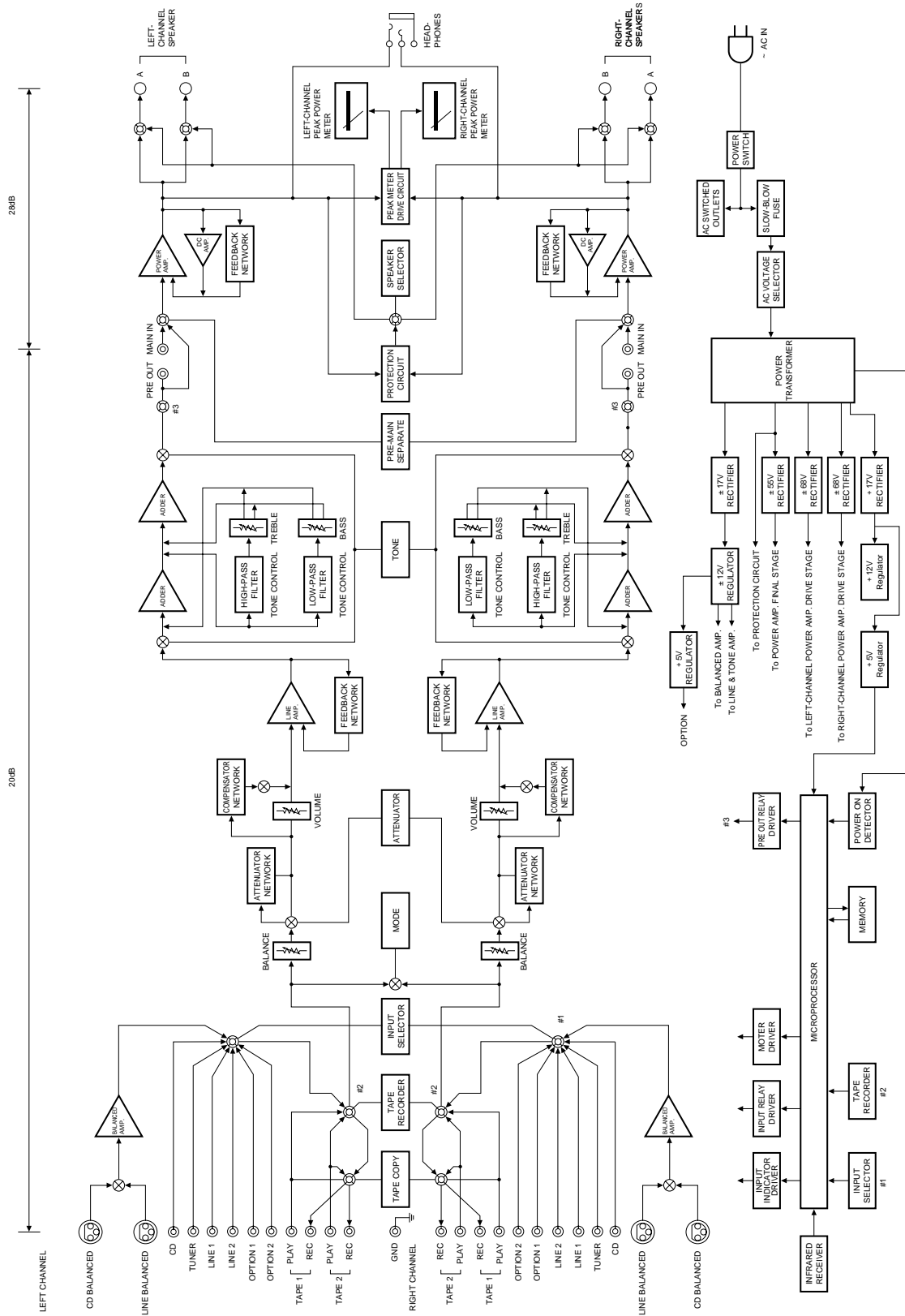
著作権について

放送や録音物 (CD、テープなど) から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホーンをご使用になるのも一つの方法です。

10. ブロック・ダイアグラム



11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

電源コードが抜けていませんか。

音がでない

ソース側機器の電源は入っていますか。
 接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
 入力切替スイッチの位置を確認します。
 テープレコーダー・スイッチの位置を確認します。
 スピーカー・スイッチを確認します。

片側のスピーカーから音が出ない

接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
 バランス・コントロールの位置を確認します。
 スピーカー・コードを左右入れ替えます。
 同じスピーカーから音がでない……コードとスピーカーのチェック
 左右逆の状態になる……本機やソース側機器に原因が考えられます。
 次に入力接続コードを左右入れ替えます。
 同じスピーカーから音がでない……本機に原因が考えられます。
 左右逆の状態になる……コードやソース側機器に原因が考えられます。

定位感がはっきりしない

本機とスピーカー端子の極性(+ ㄻ -)は正しく接続されていますか。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。
 新しい電池に交換してみましょう。
 受光部付近に障害物はありませんか。

12. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
 オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。
 使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。
 保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお薦めします。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
 AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお問い合わせいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
 TEL 045(901)2771(代表)
 FAX 045(901)8995

当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。

<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

モデル名、シリアル番号	ご住所、氏名、電話番号
ご購入日、ご購入店	故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 - 14 - 10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)